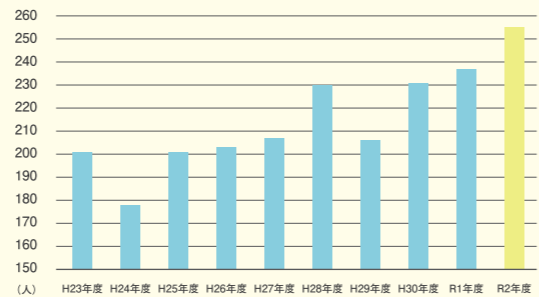


数字でみる錦海リハ

過去10年間の入院受入患者数の推移

過去10年間の入院患者数の推移をみていくと、10年前の平成23年度は201人であった入院患者数は、この10年間で約1.3倍の255人まで増加しています。この間、病床数に変化はありませんので、なるべく短い時間で、最大限の日常生活動作の向上を目指した、当院のリハビリテーション・ケアの取り組みの成果ともいえますし、同時に退院後のより良い生活を目指した支援の強化も奏功しているのではないかと考えています。この地域にある回復期リハビリテーション専門病院として、変わらぬ役割を果たすため、これからも更なる進化を目指してまいります。

過去10年間の入院患者数の推移



新任医師のご紹介

4月1日より、仲山美名子医師が着任いたしました。

仲山先生から一言

脳神経外科医として約20年間、急性期治療を行ってきました。その頃から、回復期リハビリが必要な多くの患者さんに評判の良かった錦海リハビリテーション病院にとても興味があり、4月1日からリハビリ科医師として勤務させて頂くことになりました。施設内の細部にまでこだわった充実したハード面のみならず、リハビリ専門医や認定医、セラピストも多く、看護師、薬剤師、介護士、社会福祉士、管理栄養士、歯科衛生士が、One teamとなり、個々の患者さんに対して、できるだけ短期間で可能な限りの機能回復を目指すというソフト面での充実が魅力だと思います。一つ一つの問題にとことん取り組む姿勢は、執着気質の私には合っているかもしれません。勤務4日目にして資格の一つ取得しました。なかなかの促成栽培ぶりですが、置いていかれないよう頑張りたいと思いますので、よろしく願います。

リハビリテーション科
仲山美名子 (なかやまみなこ)
出身大学:鳥取大学医学部
専門医:脳神経外科専門医



仲山美名子 医師

専門雑誌・書籍掲載

野坂進之介(理学療法士)、今田健(共同)(理学療法士・リハビリテーション技術部課長)
Effects of cognitive dysfunction and dual task on gait speed and prefrontal cortex activation in community-dwelling older adults.
Aging, Neuropsychology, and Cognition, 2020.12.23

外部講演

岩田久義(言語聴覚士・リハビリ技術部主任)
いつまでもおいしく食べるために
後期高齢者口腔機能向上支援事業[就労地区]、米子市主催、2020.10.22、米子市
藤井春美(看護師・副院長)
人材管理1 人材育成の基礎知識
認定看護管理者ファーストレベル教育課程研修、鳥取県看護協会主催、2020.10.9、鳥取市
今田健(理学療法士・リハビリ技術部課長)
職場内教育モデル
日本理学療法士協会2020年度理学療法士の働き方モデル構築・普及促進事業、日本理学療法士協会主催、2020.11.1、オンライン開催
世戸隆弘(言語聴覚士)
口腔体操・口腔ケア
口腔体操・口腔ケア勉強会、加茂公民館主催、2020.11.24、米子市
岩田久義(言語聴覚士・リハビリ技術部主任)
しっかり噛んで飲み込んでおいしいものを食べて健康長寿
後期高齢者口腔事業フォローアップ教室[県地区]、米子市主催、2020.11.26、米子市
三好綾(言語聴覚士)
失語症のある方へのコミュニケーション支援と意思疎通支援事業について
令和2年度鳥取県失語症者向け意思疎通支援者養成研修会、鳥取県主催、2020.11.28、鳥取市
濱崎喬之(言語聴覚士)
言葉の発達が気になる、発音が気になる～錦海リハビリテーション病院小児言語聴覚療法について～
第39回鳥取県西部歯科臨床懇談会、鳥取県西部歯科医師会主催、2020.12.6、米子市
角田賢(医師・病院長)
脳卒中後の自動車運転再開支援の取り組み
教育セミナー、日本リハビリテーション病院・施設協会主催、2020.12.14-27、オンライン開催
岩田久義(言語聴覚士)
しっかり噛んで飲み込んでおいしいものを食べて健康長寿
後期高齢者口腔事業フォローアップ教室[住吉地区]、米子市主催、2020.12.18、米子市
竹内茂伸(言語聴覚士・副院長)
回復期リハビリテーション病棟を基点とした医科歯科協働による「口から食べる支援」～鳥取県西部圏域における地域連携を交えて～
木嶋恵美(管理栄養士)
在宅で安心して食べられるように～管理栄養士の役割～
これからの介護医療経営塾、国際福祉医療経営者支援協会主催、2021.1.16、オンライン開催
木佐高志(言語聴覚士・リハビリ技術部主任)
地域包括ケアと理学療法、作業療法、言語療法～理学療法士、作業療法士、言語聴覚士だからできること(ST会の立場から)
リハビリテーションと地域連携に向けた連絡会、鳥取県主催、2021.1.20、東伯郡

福田由美子(看護師)、片寄加代子(看護師)、坂根嘉奈子(看護師・看護部主任)
回復期リハビリテーション病院での退院支援
鳥取大学医学部附属病院退院支援コース研修、鳥取大学医学部附属病院看護部主任、2021.2.24、オンライン開催
角田賢(医師・病院長)
回復期リハビリテーション病棟の役割について
やさしい手ウェブセミナー、やさしい手主催、2021.3.8、オンライン開催

学会発表

遠藤美紀(理学療法士)
4ヵ月間の退院後訪問を通じた家族介護者における介護負担感の調査
烏谷香蓮(理学療法士)
同居家族の有無における自宅復帰率と退院時FIMの関連
第7回日本地域理学療法学会学術大会、2020.11.7-8、オンライン開催
足立睦未(理学療法士)
回復期病棟へ入院中のサルコペニアに該当した症例と複数回転倒の関連性
原田あゆ美(作業療法士)
脳卒中患者を対象とした随意運動助型電気刺激装置(IVES)の即時効果について
村上英里(作業療法士)
機械浴脱却プロジェクト 一脱却基準の阻害因子を減点項目として
竹内勇登(作業療法士)
介護力が乏しい重症患者を自宅退院へと導いた関わりについて
石田拓海(作業療法士)
リハビリに対する意欲向上が図れず苦慮した一例
廣瀬一成(作業療法士)
退院後の生活がセラピストの想定していたものと大きくかけ離れた一症例
山内亜美(言語聴覚士)
失語症サロン『スマイル』について～失語症者の参加目的に関する質的分析～
世戸隆弘(言語聴覚士)
患者家族の訓練参加のメリット～前向きになれた家族の一例～
大森恵子(看護師)
IOC手技を獲得し在宅復帰した高齢患者に関する一例
2020年度回復期リハビリテーション病棟協会研究発表会、2021.3.1-31、オンライン開催

※氏名、職員の肩書は掲載、開催時点のものであり現在は変更があります。

診療方針: わたくしたちは
回復期リハビリテーション医療と地域連携を通して
患者さんの社会参加を支援します。

錦海リハビリテーション病院
〒683-0825 鳥取県米子市錦海町3-4-5
TEL 0859-34-2300 [代表]
FAX 0859-34-2303



KINKAI REHABILITATION HOSPITAL NEWS



錦海リハビリテーション病院ニュース

発行: 社会福祉法人こうほうえん 錦海リハビリテーション病院

TEL: 0859-34-2300 [代表]
E-mail: kinkai-hp@kohoen.jp
URL: https://www.kinkai-rehab.jp

2021 VOL. 13

SPECIAL 最前線 1

錦海リハビリテーション病院

Withコロナ時代 今、回復期リハビリテーション病棟に できること

鳥取県の回復期リハビリテーション病棟でも コロナ禍の影響は様々な場面で起きています

新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威をふるうようになって1年以上が経過しました。毎日のニュースは新規ウイルス陽性者数で始まるようになってしまいました。幸いにして鳥取県は全国でも最も感染者の少ない県で、首都圏や関西圏に比べると感染による医療崩壊からは縁遠い状態がこの1年継続されてきました。そんな鳥取県でもコロナ禍の影響は様々な場面で起きています。



当院でも医療従事者等への新型コロナウイルスワクチンの接種を開始しました。写真右は竹林香織 医師

コロナ禍を逆にとった今後生きる仕組みづくり

回復期リハビリテーション病棟は脳卒中などの疾病や骨折などの外傷の患者さんの在宅復帰、社会復帰を目指すための病棟です。面会制限が続く中、家族や社会から

分断されてしまうことが、この在宅復帰、社会復帰の阻害要因となっています。高齢者の割合もたかく、認知面に問題が新たに発生してしまうことも少なくなく、これも在宅復帰を困難にする一因となります。家族の絆をどう維持するのか、感染症対策とのバランスをどう取っていくのか難しい課題です。当院では院内の全ての場所から無料でインターネット接続できるよう、以前から患者満足度アンケートでも要望の多かった無料WiFi環境を整備しました。スマホ、タブレットを利用したビデオ通話アプリなどでコロナのために帰省することも困難な都会に住むご家族との連携が可能となりました。

また退院前地域カンファレンスで生活期を支えるケアマネージャーさんや通所サービス、訪問リハスタッフなどの連携を図ることは大変重要ですが、感染対策を各事業所がとる中で複数の事業所から多数の関係者を一同に集めることができなくなったため、当院ではリモートでの地域カンファレンスを開始しました。PCに不慣れなスタッフや地域の他施設の協力なしでは成立しない試みでしたが、逆に通常ではカンファレンスへの参加が困難であった多職種参加が可能となり、各専門職種間での綿密な情報交換ができるようになったことは大きな収穫でした。また地域カンファレンス参加のために車で1時間以上かけて参加して下さっていた遠方の事業所にとっては、無駄な往復の時間がなくなりました。感染対策として始まったリモートでのカンファレンス開催ですが、業務改善、生産性向上につながることははっきりしてきましたので、コロナ禍が収まったあとも有効活用できる仕組みづくりをしていこうと考えています。



リモートによる退院前地域カンファレンスの開催によって、他機関からの参加職種が増えるといった嬉しい副産物もありました

Withコロナの時代がもうしばらく続くことでしょう。そんな中でも回復期リハビリテーション医療を必要とする患者さんに提供し続けられるよう、十分な感染対策をとりながら創意工夫していきたいと思えます。

社会福祉法人 こうほうえん
錦海リハビリテーション病院
病院長 角田 賢

SPECIAL 最前線 2

急性期病院との看看連携により、共通の「脳卒中再発予防パンフレット」が完成!

当院看護部と鳥取大学医学部附属病院(以下鳥大病院とする)看護部は平成27年より看看連携により交流を深め、特に退院支援に関しては、双方の研修会に講師を派遣したり、体験実習の受け入れを行い、お互いが顔の見える関係を築いてきました。

令和元年に鳥大病院の「退院支援人材育成プログラム・施設実習」の受け入れを行った際、現場から「当院と鳥大病院が協力し、患者目標を達成するために支援を繋げることができないか」という意見がでました。そこで、令和2年2月から定期的に月1回、当院で集まり退院支援に関する看看連携会議を開催するようになりました。メンバーは、当院は回復期リハビリテーション看護師認定者を中心に、看護部長、看護師長、主任含め7名、鳥大病院からは、退院支援センター看護師長、脳卒中リハビリテーション認定看護師、退院専従看護師含め5名です。

話し合いのテーマのとりかかりは患者情報を申し送る「看護連絡票」の記載内容でした。項目として①医療処置に関する管理能力②内服管理③排泄に関するこ



現在オンラインで開催している退院支援に関する看看連携会議。鳥取大学医学部附属病院・山陰労災病院・錦海リハビリテーション病棟の3病棟の担当看護師が集い1回開催しています。

と④認知症レベルの把握⑤患者指導などが取り上げられました。中でも、患者指導に関しては、双方の病院が独自に「脳卒中再発予防パンフレット」を作成していたことから、急性期と回復期で共有できないかということで、この度紹介する共通の「脳卒中再発を予防するために」のパンフレット作成が始まりました。令和2年6月には第1弾が完成し試行を開始し、途中、他職種(医師、薬剤師、管理栄養士)からも意見をいただき、都度細かな修正を繰り返し行いました。指導プログラムは、公益社団法人 日本脳卒中協会出典の「脳卒中予防10か条」が基本となっています。

また、鳥大病院からは転院先の鳥取県西部地区の回復期リハビリテーション病院、および急性期の山陰労災病院に新たに作成したパンフレットを紹介したところ、患者指導に利用したいという意見を多くからいただきました。これを機に、同年12月からは、急性期の山陰労災病院から、退院専従看護師、脳卒中リハビリテーション看護師が連携会議のメンバーに加わり、3病院での検討に拡大しております。

今年度から、完成したパンフレット(患者用、指導用の2部構成)運用を3病院で開始し、回復期リハビリテーション病院へ徐々に拡大していく予定です。共通した患者教育指導スキルも一定にする必要がありますので、指導者育成研修(e-ラーニング)にも順次取り組んでいきます。

今後は、地域包括ケアシステムの脳卒中連携パスでつながる維持期(施設、訪問看護ステーション、開業医など)へ活用を拡大することで、地域で同じツールを使用した継続した患者指導ができればと思います。最終的に、脳卒中で回復した患者さんの再発を防止、住み慣れた地域で暮らし続ける支援につながることを期待します。



この度完成した「脳卒中再発を予防するために」のパンフレット。コチラは患者用表紙になります。

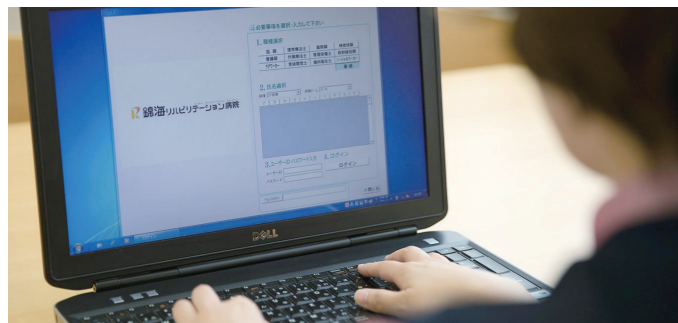
SPECIAL 最前線 3

事務部の紹介 病院事務のお仕事

患者さんの声を大切にしたい病院づくり

事務部では、患者さんの声を大切に、良質で安全な医療サービスの提供と安定的な経営維持の実現を基本的責務として日々の業務にあたっています。

業務内容は、患者さんなどの窓口対応、電子カルテなどの医療情報システムの運用管理、良質で安全な医療を提供するための環境整備、病院で働く職員のための職場環境の整備、病院の経営管理、人事労務管理、医療事務、購買管理、施設設備の管理、委託業者の管理など、多岐に渡ります。また、新型コロナウイルス感染症等の感染症対策関連、近年多発する各種の災害を想定した対応体制の構築においても、備蓄品準備や院内環境整備などにおいて中心的な役割を担っています。



職種の垣根を外した情報共有を図るため、(株)エムピーテック社製のチームアプローチ対応型電子カルテ「リハビリテーションSynapse」を導入しています。

良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

回復期リハビリテーションの専門病院として、患者さんの今後の生活を見据えた当院の診療方針「わたくしたちは、回復的リハビリテーション医療と地域連携を通して患者さんの社会参加を支援します」を体現するため、多職種からなるリハビリテーションチームを事務方として下支えすることで、良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営を目指しています。

その一環として、病院一丸となった質改善の取り組みである、病院機能評価本体審査と高度・専門機能リハビリテーション(回復期)の受審においては、プロジェクトチームの副リーダー、事務担当としても参画しています。

患者さんやご家族、職員にとって、より魅力的な病院となるように

医療情勢は年を追うごとに変化し、事務部の果たす役割は益々大きくなっています。

事務部職員は少数ながらも皆が専門性を発揮しながら、院内各部署やこうほうえん法人本部と密に連携し、患者さんやご家族、職員にとって、より魅力的な病院となるよう努めてまいります。

これからも1階病院事務窓口まで皆さんのご意見・ご要望をお聞かせください。



病院受付は正面玄関からお入りいただくと右手にある広い窓口です。

TOPICS 01

患者さん向け 無料Wi-Fiネットワークサービスを 提供開始しました

2021年3月1日より、院内サービス向上の一環として、全館無線LAN(Wi-Fi)ネットワーク設備を整え、患者さんやその家族を対象とした無料Wi-Fiサービスの提供も開始しました。病室をはじめ、1階ロビー、喫茶室など、院内のどこからでも使用が可能となっております。

患者さん向けの無料Wi-Fiサービスの提供につきましては、これまで多くのご要望をいただいております。急性期に向けた計画に着手しておりましたが、新型コロナウイルス感染症対策の一環として面会制限のご協力をいただくなか、代替手段としてビデオ通話アプリを利用される患者さんも増えており、その様な側面からもニーズの高まりを感じておりました。

当院では引き続き患者さんの声を大切にして、院内サービスの向上に取り組んでまいりますので、今後ともご意見・ご要望をよろしくお願いたします。



各病室からもWi-Fiサービスに接続できます。

TOPICS 03

第25回こうほうえん法人研究発表会 (オンライン開催)

2021年3月20日(土)に第25回こうほうえん法人研究発表会がオンライン開催されました。

今回は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、鳥取県や東京都内の各拠点エリアをオンラインで繋ぐ初の試みとなりました。当法人による中国でのコンサルティング事業の帰国報告や42演題の一般演題発表など、296名のオンライン参加者を得て盛会裏に終了しました。

当日は錦海リハビリテーション病院オンライン会場からも6演題を発表し、濱崎喬之 言語聴覚士の「言語聴覚療法に特化した小児リハビリテーション〜次世代を担う子どもたちを支えるために〜」が優秀賞を受賞しました。

これまで築き上げてきた、こうほうえんの伝統と文化を継承しつつ、厳しい環境に歩みを止めることなく、これからも新たなチャレンジと創意工夫を凝らし、皆で研鑽を積んでいきたいと思ひます。



オンラインメイン会場のさかい幸福苑 ナマステホール

TOPICS 02

2020年度 回復期リハビリテーション病棟協会 研究発表会(オンライン開催)

新型コロナウイルス感染症感染拡大によって、回復期リハビリテーション病棟協会主催の3大会が止む無く開催中止となっておりますが、協会関係者の多大な尽力によって、2020年度回復期リハビリテーション病棟協会研究発表大会としてオンライン開催され、3月1・2日の両日はライブ配信、3月末までオンデマンド配信されました。

当院からは一般演題として口述・ポスター9題発表し、情報交換や明日の臨床に活かせる多くのご意見もいただくことができました。また、角田賢病院院長は回復期リハビリテーション病棟協会と地域包括ケア病棟協会による、合同シンポジウム「入棟時のゴール設定から退院支援までのプロセス〜3職種からの活動報告〜」の座長として登壇し、シンポジウムのまとめとして、回復期リハビリ病棟と地域包括ケア病棟が、在宅でのより良い生活をサポートしていく大きな2本の柱になっていけたらと話をしました。

全国から一堂に集い場を共有する醍醐味に勝るものは有りませんが、現地に行かずとも、当院の全職員が最先端の回復期リハビリテーション医療に触れる機会を得ることができたのは、オンライン開催による新たな恩恵でありました。

次回開催は11月18・19日にハイブリットでの開催となる、リハビリテーション・ケア合同研究大会兵庫2021となります。コロナ禍にあっても大会を支える関係者の皆様に深く感謝し、私たちが次回参加に向けての準備を進めていきたいと思います。

回復期リハビリテーション病棟協会機関誌 2021年4月号
特集 2020年度回復期リハビリテーション病棟研究発表会開く



TOPICS 04

日本医師会『みんなで安心マーク』を 取得しました

日本医師会が発行する『新型コロナウイルス感染症等感染防止対策実施医療機関 みんなで安心マーク』を取得しました。

『新型コロナウイルス感染症等感染防止対策実施医療機関 みんなで安心マーク』は、日本医師会が、感染防止対策を徹底している医療機関に対して発行するものです。例えば、全職員サージカルマスクの着用、手指衛生の徹底や朝夕の検温、飛沫防止パーテーションや空気清浄機の設置、館内を空間的導線に分けるなどチェックリストに沿った感染対策を講じています。また、来院される方にも、可能な限りサージカルマスクの着用をお願いし、入館時のサーモグラフィー検温や入館申請など、一緒になって院内における新型コロナウイルス感染症感染対策に協力もいただいております。

これからも、患者さんに安心していただけるよう感染防止対策に取り組んでまいります。



新型コロナウイルス感染症等感染防止対策実施医療機関 みんなで安心マーク